

C.COM

2022.Apr
vol.
83

平和とより良き生活のために
広島県生活協同組合連合会



新年度ごあいさつ

今、生協の普遍的価値を再確認する



広島県生活協同組合連合会
副会長理事 難波 隆宏
(広島県学校生活協同組合 理事長)

ナへの侵略は国際社会からの大きな批判にさらされています。原子力発電所への砲撃が行われ核兵器の使用もちらつかせるなど、放射能汚染と核戦争の危機が現実味を帯びました。この間、広島県生協連では核兵器廃絶に向けて、被爆者団体の皆さんと連携して署名活動などによりんできました。ウクライナへの侵略については、在日ロシア連邦大使館に抗議文を送り、再び核兵器を使用することは許されないと、被爆地ヒロシマの生協としての意思を表明しました。

近年地震、火山噴火、豪雨、台風など自然災害が頻発しています。温暖化による気候変動に起因すると思われる事象も多くなっています。新型コロナウイルスや異常気象による農作物の不作、またロシアへの経済制裁など私たちの生活は地球的規模でその影響を強く受けています。平和であり安定した環境の中でこそ、私たちの生活が保たれ、自己実現が果たせることを改めて感じています。

新年度を迎え、会員生協役職員をはじめ、関係協力団体の皆様に於かれましては、新たな気持ちでスタートを切られたことと存ります。

新型コロナウイルスの感染症拡大は、2020年1月に国内で初めての感染者が確認されて以来2年余りが経過しました。この間、新型コロナウイルスは私たちの生活を一変させました。累計感染者数は651万人、死亡者数は2・8万人に及んでいます（3月30日現在）。後遺症に苦しんでいる方も多くおられます。また医療機関や高齢者施設でお仕事をされている方、公衆衛生対策に関わっておられる行政関係者などの精神的、身体的負担は限界を超えた状態にあることが報告されています。

社会生活においては職場、学校、地域、家族をはじめとする人と人の結びつきが困難となり、従来の日常を送ることが難しくなっています。店舗の休業を余儀なくされ、就労の機会が奪われることによる経済的困窮、当たり前だつた生活を送ることができないための孤立などが深刻課題となっています。見方を変えるとこれまで表面化しなかつた社会の矛盾が明らかになつたとも言えます。

2017年、被爆地ヒロシマの悲願であった「核兵器禁止条約」が国連総会で承認され、世界で50を超える国々の批准により2021年1月に発効しました。しかし、米国による「核の傘」が必要とする立場の日本政府は批准を行っていません。この度のロシア軍によるウクライナへの侵攻は国際社会からの大きな批判にさらされています。原子力発電所への砲撃が行われ核兵器の使用もちらつかせるなど、放射能汚染と核戦争の危機が現実味を帯びました。この間、広島県生協連では核兵器廃絶に向けて、被爆者団体の皆さんと連携して署名活動などによりんできました。ウクライナへの侵略については、在日ロシア連邦大使館に抗議文を送り、再び核兵器を使用することは許されないと、被爆地ヒロシマの生協としての意思を表明しました。

世界で初めて成功を収めた協同組合は、1844年にイギリス中部にあるロッヂデールという町の紡績工場で働く人々によって設立された「ロッヂデール公正開拓者組合」であると言われています。産業革命が進む中で、労働者の低賃金や横暴な商人のやり方から暮らしを守るために助け合いの組織として誕生しました。日本では1879年に現在の生協にあたる組織が生まれています。

その後発展を続けた生協運動でしたが、世界恐慌や満州事変から太平洋戦争に続く「15年戦争」の中で苦難の時代を過ごしました。敗戦後は混乱期から高度経済成長期を経て、今日に至るまで発展を遂げてきました。生協のとりくみ課題はその時々の社会的背景によつて異なりますが、いつであつても人は人らしく心豊かに暮らしたいという願いは変わりません。生活者一人ひとりの力は微力ですが、みんなで幸せになるという普遍的な価値観の下に力を合わせることで願いは実現します。

2022年度

新入職員の 決意表明

2022年4月、

今年も多くの職員が新たに入協しました。
新入職員の決意表明をご紹介します。

●生活協同組合ひろしま

私たち2022年度新入職員一同は、常に明るく元気な挨拶を心がけ、組合員さんのもとへ「笑顔」をお届けしてまいります。『協同の力』の原点である「笑顔」を一番の原動力とし、どんなに困難な課題でも「笑顔」を忘れず、たゆまぬ努力と飽くなき挑戦を続けていきます。

今年度より入協しました初期研修医の岸剛です。出身は広島県世羅郡世羅町で島根大学を卒業しました。6年間苦労してやつと医師としての第一歩踏み出せたことを大変うれしく思っています。引っ越しの後始末などに追われていますが、気持ち的には充実した日々を送っています。

ここ2年間は新型コロナの流行でろくに実習できないという時期が続きました。もともとコミュニケーションには自信がないですが、実習不足のためさらに不安に思っています。まだ患者さんに接しているせんが、真剣に向かい合っていかないといけないと思っています。

きっと戸惑うことも多いかと思いますが一つ一つ着実に学んでいきたいと考えております。

また、一人一人が自分の個性を活かし協調性を大事に成長し続けます。その中で一日も早く戦力になれるように、誰かが落ち込んだ時にも、みんなで助け合いながらポジティブに、がむしゃらに一生懸命努力をしていき、自分ひとりではなく誰も見捨てず助け合えるような人になれるよう向上心を持つて精進していきます。

そして、組合員の皆様の要望に一つでも多く応えることができるよう、自分になにができるかを考えます。考えたことを行動にうつし、生活と暮らしに寄り添い、頂いた声を形にして参ります。

しかし声にしなければならなかつた真意をしつかり心

に受け止め、感謝の気持ちを大切にしながら日々貢献して参ります。

●広島中央保健生活協同組合



生協ひろしま2022年度新入職員一同



福島生協病院
診療部 岸 剛



協同の力でコロナと戦う！

● 広島中央保健生活協同組合

専務理事 大野 正喜

新型コロナウイルス感染症第6波が短期間で広がつて、1月24日、生協さえき病院の4階一般病棟の介護士および患者が陽性となり、全員のPCR検査を行つたところ、患者さん6名、職員5名の合計11名が陽性となりました。

入院患者も多数いましたが、4階はすぐに閉鎖し、他の階との行き来ができないようにしました。

その後、福島生協病院においてもクラスターが発生しましたが、自宅に帰れず、患者に寄り添つている職員を励ますため、他の階の窓に励ましのメッセージが貼られたり、差し入れがされたり、多職種職員が支援に入つたり、全職員が協力しあつてこの困難を乗り切りました。

どんな時でも『患者に寄り添い』『仲間を大切にし』

『困難を乗り越えていく』という医療福祉生協の原点を大切にして取り組んでいきます。



3階病棟の窓に貼られた4階病棟への激励エール！



4階病棟の窓に貼られた激励エールへのお礼メッセージ！

コロナ禍に負けない生協の強みを生かして

● 広島医療生活協同組合 専務理事 信野 哲三

① 患者・利用者の減少による経営危機

新型コロナの感染拡大が始まつた2020年3月から外来患者の減少が顕著となり、4月に緊急事態宣言が出てからは入院患者も大きく減少し、減収額の影響は最大で月500万円に達しました。緊急対策としてコ

特集 コロナに 負けない! 医療生協現場からの報告

コロナ融資の借入・設備投資の凍結・夏期賃与の削減などをを行い、組合員さんは「コロナに負けないGOGO増資」を呼びかけ、例年には多くの方から「共立病院に助けられたから」「世話になつていてるから」と出資金が寄せられました。出資金を支えに経営改善も前進し、2020年・2021年度ともに黒字を積み上げ予算を超満達成することができました。

② 組合員活動への影響

感染拡大とともに外出自粛要請により、地域支部の活動や班会の多くが制限され、特に高齢者の認知機能の低下やフレイルの進行が懸念されました。そこで健康まちづくりセンターの職員や理事が協力して電話かけによる安否確認を行いました。班には感染予防策を掲載した「コロナに負けないパンフ」を配布し、安心・安全な医療生協らしい取り組みを重視しました。2020年9月には全理事・幹部職員にiPadを支給し、理事会・補助委員会・機関会議がリモートで開催できるようになり、同時に法人公式LINEを開設し、様々な健康づくりの情報や健診予約の空き情報、ストレッチ動画の配信など有益な情報の発信を開始しました。自粛の解除後はアルコールスプレーをもつて地域を訪問し、届けた組合員さんからは大変喜ばれる取り組みとなりました。

③ 物資の不足は協同組合間の連携が助けに

感染対策物資の不足も深刻な問題でした。マスクはもちろんのこと、消毒用のアルコールとその容器、防護のためのフェイスガードやPPE素材のエプロンなど、多くのものが手に入りにくく中で、広島県生協連加盟法人のみなさまをはじめ、日本生協連・日本医療福祉生協連から多くの支援をいただき、地域を支える医療・介護・福祉事業を継続することができます。

コロナ禍による大変な2年間でしたが、組合員と職員の協同の力と協同組合間の連携の力を再確認できた期間でした。



新型コロナウイルス感染症と戦い続け2年以上が経過しました。当初、サージカルマスクや消毒液、防護服などが不足する中、広島県生協連や県内生協及び友好団体から支援物資や応援メッセージを頂くなどして、組合員・職員とともに頑張り、院内における感染は発生させずにのりきっていましたが、一気に広がった第6波の2022年2月、診療所職員において陽性者が出来ました。外来患者でも陽性者が増えましたが、組合員活動、会議等も自粛して、徹底したコロナ対策を進めることで、クラスターの発生は防ぐことができました。

医療・介護現場及び大学生への 支援物資お届け

2月21日、コロナ禍の影響で在庫过多になつてゐる取引先から、有効に使つてほしいとコーポCSネットを通し、県連に相談があり、医療生協（広島中央保健生協・広島医療生協・福山医療生協）、大学生協（広島大学生協・広島修道大学生協）に無償で以下の商品をお届けしました。



商品を受け取った看護師（広島医療生協）

現場からは「本当に様々な人に助けられている事を実感します。心より感謝申し上げます。ありがとうございました！」と感謝の言葉をいただきました。



贈呈の様子（生協さえき病院）

広島中央保健生協（福島生協病院・生協さえき病院）において新型コロナウイルス感染症対応で心身ともに疲労が重なつてゐる職員に対し、広島中央保健生協から現場を元気づける支援物資の相談が県連にあり、生協ひろしまと県連は、2月9日、医療現場で頑張つてゐる職員に対しエールを送り、果物やゼリーなどの差し入れを行いました。
広島県生協連からは柑橘類“はるみ”を贈呈しました。



贈呈した物品

広島中央保健生協への支援



許せない！ ウクライナ侵攻。 被爆地ヒロシマの想い！



2022年3月2日

ロシア連邦

ウラジーミル・ウラジーミロヴィチ・プーチン大統領閣下

ロシア軍によるウクライナ侵攻に厳重に抗議します

2022年2月24日、貴国がウクライナに対し軍事侵攻をおこなったことに厳重に抗議します。

また、24日の貴国におけるテレビ演説において「ロシアは最強の核保有国の1つだ。ロシアへの直接攻撃は、敗北と壊滅的な結果をもたらすことは間違いない」と核兵器の使用もちらつかせたことは、人類初の核兵器の犠牲になつた被爆地ヒロシマで活動する私たちは決して容認できるものではなく、強い憤りを感じざるを得ません。

1945年8月6日、第二次世界大戦の最中「戦争を早期に終了させる」という飾られた言葉を理由にヒロシマに原爆が投下され、1945年12月までに13～15万人の尊い命が失われたばかりか、残された被爆者は後遺症や差別に苦しみ、被爆二世においてもその影響が出るなど、その苦しみは77年が経過した現在においても続いています。

また、“国民の総意”ではなく一部の指導者の想いから今回の戦争が引き起こされたことは、貴国においても多く市民が「反戦のメッセージ」を発信し、抗議デモが行われていることでも明白なこととなっています。貴国は、多くの国民の想いを踏みにじるばかりか、人間として当たり前の行動を抑圧するなど、民主主義に反する暴挙を繰り返しており、全世界から非難される状況となっています。

人類初の核兵器の犠牲になつた被爆地ヒロシマで活動する私たちは、次世代に平和で豊かな地球を維持してバトンを渡す義務と責任があると思っています。そのためには、人類の生存そのものを脅かす戦争や核兵器ではなく、他者に配慮した誠実な対話を前提とした取り組みを進めるべきだと考えています。ロシア連邦大統領閣下には、人道的立場に立った「人類全体の安全保障」にもとづく平和外交をねばり強くやっていただき、平和な社会の実現に向けてリーダーシップをとっていただくことを強く願います。

広島県生活協同組合連合会



協同の力でより豊かなくらしの創造と平和な社会づくりをめざしている生協は、ロシアによるウクライナ侵攻及び核兵器を使った感嘆に対し強く抗議します！！！

2022 「戦争も核兵器もない平和な世界を」 市民の集い

名 称：2022「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い

日 時：2022年5月25日（水）10：30～12：10

会 場：エソール広島研修室（おりづるタワー10階）

参 加：約130名（会場30名、オンライン参加100名）

対 象：県内自治体首長及び職員、実行委員会構成団体会員、
一般市民



申込み：右記QRコードから5月14日（土）までにお申し込みください。

後日、招待メールをお送りします。



主 催：「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い実行委員会

内 容：ZOOMオンライン配信 開会式典・特別講演・市民団体活動報告

共 催：（公財）広島県男女共同参画財団

後 援：広島県、広島市、（公財）広島平和文化センター、平和首長会議

スケジュール

式 典：<来賓挨拶> 湯崎 英彦様 広島県知事

特別講演：（仮称）核兵器のない平和な世界へ向けて

講 師：松井 一實様 広島市長

活動報告：田中 美穂さん カクワカ広島 共同代表

※「カクワカ広島」とは「核政策を知りたい広島若者有権者の会」のことです。

主 催：「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い実行委員会

広島県原爆被害者団体協議会（箕牧被団協）、広島県原爆被害者団体協議会（佐久間被団協）

広島県地域女性団体連絡協議会、（公財）広島YMC A、広島県青年連合会、広島県生活協同組合連合会

「2022 ピースアクション in ヒロシマ」開催 !!

ヒロシマから平和な未来を～被爆 77 年 戦争も核兵器もない世界を次世代へ～

日時：2022年8月4日（木）～8月5日（金）

【開催目的】

- ・77年前のきのこ雲の下での出来事、その後の歴史や復興への歩みなど「ヒロシマ」だからこそ感じる被爆の実相や被爆者の想いに触れることで、一人ひとりが動き出せるような取り組みを行います。
- ・「戦争も核兵器もない平和な世界」を求める願いを、世代を越えて交流・共有し、全国に広げます。
- ・核兵器禁止条約の署名および批准を推し進め、誰もが安心して暮らせる世界をめざします。



【企画概要】現地開催（県内）+オンライン配信

8月4日（木）

時間	企画
14:00～15:00	分科会①[被爆の証言]
16:30～15:30	分科会②[被爆体験詩の朗読会]

分科会はオンライン配信となります。



8月5日（金）

時間	企画
14:00～15:00	分科会③[デジタルアーカイブで記憶を未来へ]
16:30～15:30	虹の広場 開催場所：JMSアステールプラザ

分科会はオンライン配信、虹の広場は県内参加+オンライン配信を致します。



※被爆の証言や室内碑めぐりガイド等の動画、継承動画等の特設サイトは6月から公開予定

※企画内容は情勢の変化等に合わせて変更・追加があり得ることご了承ください。

※参加申込のご案内は各生協から後日お知らせします。

※写真は「2021ピースアクションinヒロシマ」の様子

主催：広島県生活協同組合連合会、日本生活協同組合連合会

● 2022年度初級職員研修会を開催しました

広島県生活協同組合連合会

広島県生協連は4月14日（木）、会員生協の初級職員（入協1年～3年）を対象にした初級職員研修会を開催しました。

ここ2年コロナ禍において中止や縮小をせざるを得ませんでしたが、今年度は4生協70名が集まり開催することができました。



広島県生協連
横山副会長理事

午前中は、広島県生協連の横山弘成副会長理事より「生協とは」と題して、生協の定義や特性、社会的役割について説明がありました。また、新入職員へ「組合員の声を聞くということは相手の言葉だけでなく立場に寄り添うこと。そんな仕事の仕方をしてほしい。」と激励されました。

次に、広島県生協連の理事で広島医療生協の信野哲三専務理事より、「医療福祉生協がめざすもの」と題して、医療福祉生協の理念や災害支援の事例、取り組みについてのお話がありました。参加者からは、「生協とは組合員と支えあいながら活動していく組織だと分かった」、「災害が起つた時にいち早く支援活動に取り組んだことを知り、協同組合の良さを改めて感じた」、「理念や取り組みを学習し、組合員とのつながりの大切さ、職員のやりがいについて再認識できた」など、感想が多数寄せられました。

午後の平和公園内の碑めぐりは、あいにくの雨のため



松原 裕樹
特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター専務理事



研修参加風景

室内でそれぞれのグループに分かれて碑めぐりガイドのお話、統いて山田寿美子さんによる被爆講話をお聞きしました。碑めぐりや被爆証言を通して今まで知らなかつた当時の状況を知り、関心を持った参加者も多く、「一つ一つの碑に意味があり、平和への願いが込められていることを知った」「子供の時に受けた心の傷は70年たつた今も続いていると言わっていたのが印象に残った」「自分自身が平和について考える機会を持ち、発信していくことが大切だと思った」など、様々な感想が寄せられました。

続いて、特定非営利活動法人ひろしまNPOセンターの松原裕樹専務理事からSDGsについて学習し、「SDGsと私の働き方」というテーマでグループ討議を行いました。

SDGsの具体的な内容を学び、17の開発目標の中から各々ができるることを意見交換しました。SDGsは日々の業務の中でも取り組むことができ、それが地域や社会貢献につながることを再認識しました。今年度も、様々な職種の人との交流や学びを通じて、生協職員としての自覚が育まれることを再認識しました。

第4講はゼミの総まとめとして「変わっていく地域と暮らしに生協はどう対応するのか」をテーマに、広島市立大学社会連携センターの國本善平特任教授を講師に招き、ご講演をいただきました。

講義では、時代と共に衰退する地域社会において、

第4講はゼミの総まとめとして「変わっていく地域と暮らしに生協はどう対応するのか」をテーマに、広島市立大学社会連携センターの國本善平特任教授を講師に招き、ご講演をいただきました。

講義では、時代と共に衰退する地域社会において、連携中枢都市圏の取り組みなどを紹介され、人口減少により、経済・産業・社会保障等が縮小することで発生している地域の課題について伝えられ、最初のワークショップでは、「人口減少と地域的偏在にどう対応するか」をテーマにディスカッションして発表しました。

（報告：広島県生協連 上原恵美子）

●「2021県連生協ゼミナー（第4講）」を開催しました。

広島県生活協同組合連合会

3月30日（水）、サテライトキャンパスひろしま（広島市中区大手町）にて「2021県連生協ゼミナー（第4講）」を開催しました。

広島県生協連は、将来を担う職員育成を目的に、マーケティング、地域社会連携、平和、協同組合論などの専門分野から講師を招聘し、座学とワークショップを組み合わせたカリキュラムでゼミナールを開催しています。

第4講は、1月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症蔓延防止等重点措置のため延期となり、年度末ぎりぎりでの開催となりました。



わかりやすい言葉で講義していただいた國本善平特任教授

続いて、コロナ後の新しい働き方や暮らし方、地域協同組合の提案、イタリアのコミュニティーコープと日本

のコープの比較、生協組合員の高齢化に伴う新しいチャレンジなどについて講演され、2回目のワークショップとして「地域のこれからの課題や変化に協同組合として何ができるか」をテーマにディスカッションして発表しました。



（ブロック風景）

国本教授からは、「地域の課題に対して、協同組合の新しい行動を期待しています。」と激励の言葉をいただきシリーズ最終回となる県連生協ゼミナール（第4講）を終了しました。

（報告：広島県生協連 渡辺とおる）

● 2022年新春のつどいを開催！

1月19日（水）、ワーカピア広島において、2022年新春のつどいを開催し、会員生協の組合員や役職員など116名の参加がありました。新型コロナウイルス感染症が拡大していることから実参加は広島県生協連常務理事会メンバーだけとし、講師も含めZoomを活用したオンラインでの開催となりました。

主催者を代表して広島県生協連岡村信秀会長理事から島県原爆被害者団体協議会前理事長を偲んで、ヒロシマにおいて思想信条を乗り越え市民団体の連携に取り組んだ経緯及び「一滴のしづくがやがて大河となる」ように地道な草の根活動と連帶が世界を動かすこと、2012国際協同組合年を振り返った中で協同組合連携の意義と新たな社会建設の方向性について述べられました。記念講演は、「いつまでも住み続けられるまちづくりをめざしても異業種の法人で構成する事業協同組合」

と題して、庄内まちづくり協同組合『虹』前理事長・松本政裕氏より講演をいただきました。介護保険制度が始まる前の1997年から庄内医療生協・生協共立社・山形虹の会（社会福祉法人）・高齢者福祉生協の4社協のトップ定例会議を組織し、介護保険対応を協同ですめる協議を行い、それにファルマ山形（薬局）・コープ開発（損保等）・産直センター（農民連）を加えた7つの異業種法人で構成する事業協同組合となる「庄内まちづくり協同組合『虹』」を2004年に設立しました。

その設立背景や内容、成果や課題を報告いただきました。異業種の壁を乗り越えて、民主的に共同の事業を行い、個別の事業者だけでは実現しきれない諸要求を、協力、共同することによって解決を図り、いつまでも安心して住み続けられる地域づくりをすすめている実践を聞き、参加者から「広島県において、協同組合連携を生活者視線で進めていく参考になった。」などの感想が出されました。

地域性や各組織の条件など異なつても、「いつまでも住み続けられるまちづくり」を実現するという目的は同じであり、そのため克服しなければならないことなど大きなヒントをいただいた記念講演となりました。

（報告：広島県生協連 渡辺とおる）



岡村信秀広島県連会長理事



松本政裕氏
庄内まちづくり協同組合『虹』前理事長



資料



参加者からの質問の様子



会場の様子

県内生協ご紹介

三共生活協同組合



三共生活協同組合
理事長 宮川 哲二

【設立の経緯】

旧世羅町、旧甲山町、旧久井町の3町が共同して地域の葬祭をおこなっていましたが、1973年に3町の生活改善目的の共同体を作ろうと有志が集まり「三共葬祭組合」を設立しました。その後、法人化するため生活協同組合設立の申請を行い、1997年「三共生活協同組合」が誕生しました。「三共」とは3つの町の共同体を表しています。地域の葬祭の約8割を担っている、地域に根差した生協です。



【現状の課題】

活動エリアでは人口減少による過疎化が進み、さらにコロナによる葬祭規模縮小など2020年度は設立以来初めての赤字となりました。その状況を打開するため2021年度、経営改善の委員会を設立し、仕入れなど経費の見直しを行い、コロナの影響で葬祭供給は減少したものとの事業は黒字になりました。

【理事長の想い】

過疎化はこれからも進行します。葬祭件数も頭打ちになります。しかし、地域の暮らしに貢献する三共生協を維持発展させていくため、2022年度はJAとの委託契約を交わしたことから葬祭件数を増やす取り組みをすすめています。また、生協として地域社会貢献活動を進めるため、歩道のごみ収集を年2回実施したり、グランドゴルフ活動を支援していましたが、2022年度は地元の世羅高校陸上部や留学生への支援活動を行うことも計画しています。生協として黒字経営を維持し、毎年、組合員へ出資配当(2021年度配当は2%を予定)などの還元を継続するとともに、地域社会に貢献し続けていきます。

■所在地 〒722-1111 広島県世羅郡世羅町大字寺町 2114 番地

TEL 0847-22-3040

■代表者名 理事長 宮川 哲二

■組合員数 4,637人

■事業高 158,331千円

■出資金 57,272千円

■設立登記年月 1997年9月

■活動エリア 世羅町・三原市

■役員数 (常勤理事) 1人 (非常勤理事) 15人 (非常勤監事) 3人

■職員数 (正規) 7人

■その他組織状況 【加入時の出資金】 6,000円(12口)

*数値は2021年12月末実績

第5回理事会報告

■開催日 3月4日 ■出席 理事17名中16名出席 (内Web会議システム出席15名)

□議決事項

・広島県協同組合大学生応援プロジェクト支援金拠出の件

・他団体の公職承認の件

□協議事項

・2022年度通常総会について ・2022年度機関会議日程について

・平和活動関連について

□報告事項

・2022年度初級職員研修会開催について ・新型コロナウイルス感染症支援関連報告

・広島市健康福祉局担当局長懇談報告 ・2021けんこうチャレンジ報告

・2022年新春のつどい開催報告 ・もつたないをつないでいく会議報告

第4回福祉・介護委員会報告

■開催日 2月17日

□主な協議・報告事項

・2021年度活動報告(案) 及び2022年度活動方針について

・2022年度平和活動方針

・広島県協同組合大学生応援プロジェクト報告

・令和3年度食品安全表示ウォッチャーによる表示点検 調査結果報告

第4回福祉・介護委員会報告

■開催日 2月9日

□主な協議・報告事項

・各生協活動報告及び2022年度方針(案)について

・新型コロナウイルス感染症対応について・福祉

・介護委員会2021年度報告及び2022年度計画(案)について

・2021年度社会福祉法人協同福祉会コンサルティングについて

第4回福祉・介護委員会報告

■開催日 2月9日

□主な協議・報告事項

・広島県生協連2022年度通常総会の開催について

・広島県生活協同組合連合会は、2022年度通常総会を下期の通り開催いたします。

1. 開催日時 2022年6月22日(水) 13:00~14:00

2. 開催場所 ワークピア広島 4階芙蓉(広島市南区金屋町1-17)

3. 議題 第1号議案 2021年度活動報告ならびに決算報告承認と

第2号議案 剰余金処分案承認の件

第3号議案 2022年度活動方針ならびに収支予算案決定の件

・総会代議員選出基準にもとづいて、3月末組合員数によります。

・各代議員数は、会員生協にお知らせします。

みなさんが思うひろしまの魅力って何でしょうか？

広島県からのお知らせ

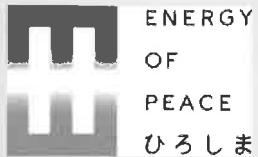


「平和を追求する情熱と行動力」、「スポーツを愛し応援する情熱」、「多様でおいしい食資産」、「多彩で豊富な観光資源」、「都市と自然が近接した質の高い暮らし」、「復興を成し遂げた努力とエネルギー」などなど、ひろしまってこうだよねと共感してもらえる魅力がたくさんあると思います。

この春、これらひろしまの魅力を、みんなで高め・伝えていく取組がスタート！

ひろしまの魅力を高め・伝えていくことは、世の中から評価されて、選ばれ続ける未来の広島県を創ることにつながっていきます。

みなさんと一緒に取組を進めるため、ひろしまの魅力を「元気、美味しい、暮らしやすい」という3つの要素で表現し、それを象徴する旗印（ビジュアルシンボル）を作成しました。



私たち一人ひとりが、ひろしまの良さを再認識し誇りに思い、その良さをさらに磨き伝えることで他県のみなさんにひろしまが良いと感じてもらえば、私たちも、もっと広島が好きになる、という良い循環を創っていきたいと考えています。

他県の皆さんにも「広島に来たらなんか元気が出たよ」とか、「広島ってすごい美味しいね！」「広島ってすごい暮らしやすいよね」と言ってもらえると嬉しいですね。

あなたのひろしま愛が、もっと元気なひろしまを創ります。
さあ、みんなで大好きなひろしまを広めていこう！！



「元気・美味しい・暮らしやすい」
ひろしまの魅力を紹介するサイトはこちら→



「消費者トラブルの手口を知りましょう」②

適格消費者団体 NPO 法人 消費者ネット広島

インターネットを悪用した詐欺などの被害が後を絶ちません。消費者トラブルは身近なところに存在しています。情報を知り、被害にあうことがないよう、また被害にあったときの対処法について、日頃から備えておきましょう。

ネット通販の定期購入トラブルに注意！



スマートフォンで「初回 500 円」というダイエットサプリメントの SNS 広告を見て、販売サイトにアクセスした。2 回目以降、約 4,000 円の商品が毎月届く定期購入で、「次回発送日の 10 日前までに解約の連絡をすれば、いつでも解約できる」という条件を見て申し込んだ。数日後、初回の商品が届き、2回目の商品が届く前に解約したいと思い、販売業者に電話をしたが、混み合っていて繋がらない。(40歳代 女性)

「いつでも解約可能」と表示されていても、解約の申し出期間や連絡手段が限定されている、解約が思うように進まないケースもあります。相談者には、時間を変えて何度か電話をかけてみるよう助言しました。また、念のため、メールなどほかの手段でも解約の意思を伝えておくよう助言しました。



【インターネット通信販売利用時の注意点】

- インターネットを含む通信販売では、クーリングオフ制度はありません。返品や解約の条件はそれぞれの事業者が決めており、その条件が広告に表示されていれば、その内容に従うことになります。
- 商品を注文する際には、返品や解約の条件とともに利用規約に必ず目を通し、契約内容を理解したうえで契約内容を理解したうえで申し込みましょう。
- 契約内容を確認するために、注文時の画面やメールのやり取りなどは保存しておきましょう。

平和な世界を祈るだけでなく、一人ひとりが具体的な行動に



たなか 美穂
田中 美穂

1994年生まれ。福岡県北九州市出身。
カクワカ広島共同代表。
2017年に就職を機に広島に移り住み、
翌年夏より核廃絶国際キャンペーン（ICAN）が
発行するキャンペーンニュースや
ニュースレターの翻訳に携わるようになる。
以後、核廃絶の運動や世界の現状に興味を持ち、
2019年1月、広島で出会った仲間とともに
「核政策を知りたい広島有権者有権者の会（カクワカ広島）」を立ち上げる。
会社員として働きながら、広島選出の国会議員と面会し、
SNS等を通じて核兵器禁止条約に対する
それぞの考え方などを発信する活動をしている。
好きなものは、歌うことと日本酒。
カクワカ広島ウェブサイト：
<https://kakuwakahirashima.jimdofree.com/>

「平和な世界をただ祈るだけではなく、一人ひとりが具体的な行動を」2018年11月、広島で被爆したカナダ在住の被爆者、サーコー節子さんの講演会でのこの言葉が私の人生を大きく変えました。大学まで地元・福岡で過ごし、核兵器について何も知らない自分が、社会問題に対してアクションしたことすらありませんでしたが、この言葉を聞いた時「私も何かやらなければ」と強く心が動かされたのを覚えています。幸運なことに思いを同じくする仲間に恵まれ、講演会から約一ヶ月後、一緒にカクワカ広島を立ち上げました。

カクワカ広島では、広島選出、または広島にゆかりのある国会議員に直接会って、日本の核政策や核兵器禁止条約についての考えを尋ね、得られた回答をウェブサイトやSNSにアップしています。これまで18名中11名の国会議員のみなさんと面会することができました。実際会つてみないと分からぬ、議員の考え方やお人柄に触れることで、政治の世界が自分にぐっと近づいた気がします。私たちと考えが異なる議員ももちろんいますが、なぜそう思うのかまずお互いに知ることと、そして有権者として思いを伝えること、このプロセスは本当に大事だと感じています。選挙のときは候補者全員に核政策に関するアンケートを行い、ウェブサイト・SNSで結果を公表しているので、ぜひ投票の判断材料の一つとして活用して頂けたら嬉しいです。

ロシアによるウクライナ侵攻を目の当たりにして、お互いに知ることと、そして有権者として思いを伝えること、このプロセスは本当に大事だと感じています。選挙のときは候補者全員に核政策に関するアンケートを行い、ウェブサイト・SNSで結果を公表しているので、ぜひ投票の判断材料の一つとして活用して頂けたら嬉しいです。

多くの人々が核兵器や核戦争のことをより現実味を持つて感じることになったと思います。広島と長崎で起きたことは昔習った歴史ではなく、今も起こっています。それ以降も核廃絶を訴え続けてきましたが、活動を続ける中で「理想ばかりで現実を見ていない」「日本で活動しても意味がない」といったコメントをもらうことも少なくありません。コメントを書いた方々にも色々な背景や思いがあると思いますが、私にとっての「現実」は、できるはずがないと言わ続けてきた核兵器禁止条約が2021年1月22日に発効し、「核兵器の終わりの始まり」としてじわじわと世界を変え始めていくことです。今は女性に参政権があるのは当たり前ですが、日本では76年前まで女性は選挙で投票できませんでした。今当然のように享受していることでも、振り返ってみると多くの人々の努力によって勝ち取られた結果なんだと分かることは山ほどあります。核兵器のない世界を「当たり前」にできるかどうかは私たちにかかると思います。

私たちは社会を作る一員であるということを、忘れないにいたいと思います。権力に加担する」とか、問題をそのままにするよりも、社会を変える」とか、私たち一人ひとりの選択にかかっているのではないでしょう。平和は祈るものでなく、自分たちで作り続けるもの。具体的な行動をこれからも積み重ねていきます。